

第4回「第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会」における主な発言

【題名・副題について】

- 中部、東海など色々な言い方があるが、その中でどう名古屋を際立たせブランディングしていくかが重要なので「NAGOYA」という英語表記は良いと思う。
- 副題はもう少し主体的なイメージで「アジアと共に未来を紡ぐ」「アジアと共有する未来の創造」 こういった表現も良いのではないかな。
- 2030年、2040年を見据えた名古屋に暮らす私たちという観点に立てば、「未来を紡ぐ」「私たちの暮らし」などの具体的なイメージの副題も良いのではないかな。
- 『レガシー』といった言葉は一般的には分かりづらいかもしれないので、その点は工夫のしどころ。未来の創造に市民が主体的に関わるものであるというニュアンスが出ると素敵な副題になる。
- 2030年には我々が描いている世界以上にアジアが成長していることが考えられる。「アジア全体のアクティブライフをこのアジア大会でシンボリックに引っ張って行くんだ」というものが見えると社会的意義が出てくるのではないかな。

【コンセプトについて】

- 文章自体は良いが、デザインを考える時に読みやすいように改行して頂ければ分かり易いと思う。
- 「魅力」があっただけの「誇り」であると考えられるため、まちの姿2は「誇り・魅力」を「魅力・誇り」に入れ替えた方が良いのではないかな。

【めざすまちの姿について】

- 文字情報が多いと感じた。このページが次項以降の詳細を示すページになるので、ここで全体像が分かる様もう少しわかりやすいイラストやレイアウトを検討すると良い。
- イラストが加わり分かり易くなったが、絵と文字の繋がりが分かりづらいのでデザインを考える際にもう一度再考すべきである。
- イラストでスポーツをしている人々が描かれているが、大人ばかりなので、次世代のスポーツ振興の観点からスポーツをしている子供の姿を加えた方が良い。また、多様性や障害者スポーツの観点で障害者も加えると良いのではないかな。

【まちの姿1（健康・地域活力）について】

- 「スポーツにより」を「運動・スポーツにより」に変更した方が市民が健康に暮らし、という所よりつながりやすいと思う。
- 取り組みの方向性『(3) 地域活性化、市民活動の促進』では、多様な人々の市民活動への関心を高めとあるので、地域活性化、多様な市民活動の促進といったように中身とタイトルを合わせても良いのではないかな。

【まちの姿2（誇り・魅力）について】

- アフターコンベンションのプログラム化等、インバウンド促進・受け入れ環境を大会前/大会期中/大会後でしっかりと準備する事が重要である。これはリニア中央新幹線開業に向けた備えにもなる。
- アジア競技大会を契機として様々なものを整備し、その後のMICE誘致にもつなげて行こうというのであれば、多言語での発信、最低でも正しい英語での継続的な分かり易い情報発信が重要である。

【まちの姿3（国際交流・多様性）について】

- 「国際社会で活躍する人材が集う、開かれた都市になっている」という表現は、外から国際社会で活躍する人達が集まってくるというイメージだが、説明文の後半部分をみると、「今いる名古屋市民をもっと国際的にする」「国際社会で活躍する人に育てる」というニュアンスで記載されている。どちらも重要だが、育成という側面を強調したいのであれば、「3. 国際交流・多様性」の主文も、そのような表現にすると良いのではないか。
- 取り組みの方向性『(2) 次世代を担うグローバル人材の育成・確保』に関する施策として挙げられている施策14については、公立高校の多くは県立で県の管轄であるため小中学校を想定しているのかもしれないが、グローバル人材の育成については、大学生さらには社会人までも含めた育成が重要なので「子どもや若者」だけでなく、対象を広げて検討することが大切だと考える。
- 国際交流よりも多様性がより大きな概念で、多様性の一要素として国際交流がある。したがって、多様性の方を前面に出す方がよい。様々な多様性があり色々な背景を持つ誰もが地域の一員としてつながって安心していられる都市になっているという視点がより重要ではないか。

【まちの姿4（イノベーション・持続可能性）について】

- 「魅力」といった視点をもう少し強調し、アジア競技大会では何が出来るのか表現できると良い。
- 名古屋競馬場後地の選手村跡地周辺だけではなく、金山とか名駅、栄、港方面も全体としてのネットワークの中で今後選手村がこういった位置づけになるのかをもう少し広い視点で見るべき。
- この大会が名古屋市のパテンシャルをいかに引き出すことが出来るのかという表現も良いのではないか。
- 企業を誘致するだけではイノベーションは起こらない。新しい事を起こせるような人材・環境を育てないと名古屋から人が抜けて行ってしまわないか。
- 市、県でも多く試みられていると思うが、産学官連携で育ててイノベーションを起こす、そんなまちづくりをしてそれを試せる場所を作っていけると良い。名古屋に残らないという状況を食い止め東京からも人を呼び寄せられるような形にするべきである。

【全体構成】

- ビジョンを示すための資料であることから、コンセプトやめざすまちの姿を前の方に移動させ、資料は後半部分に持っていくなど、構成を見直し、見ていただく方にビジョンをすぐに確認してもらえるようにしてはどうか。
- 「めざすまちの姿」を「NAGOYA ビジョン」に置き換えてもいいかもしれない。